

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 八王子国際協会

1. 事業の趣旨・目的

日本における外国につながる子どもたちの現状や課題、母国の社会的、文化的背景を理解し、日本語学習支援ボランティアとしての十分な基礎知識を持ち、多文化共生の理念を身に付けた質の高い子ども日本語学習支援ボランティアの実践的な能力の向上と育成を目的とする。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
4月27日	国際交流室	本田 弘之 北田 玲子 高橋 陽子 春田 貞淑	講座内容の検討	本多運営委員より提示された原案について講座日程・内容・講師などについて具体的に話し合われた。
6月11日	国際交流室	本田 弘之 北田 玲子 高橋 陽子 春田 貞淑	講座実習の検討 八王子市広報掲載原稿の検討 チラシ・ポスター制作について	講座実習について再度検討 事務局作成の八王子市広報原稿について検討 前回のチラシ・ポスター等を参考に原案を作成し、事務局に依頼
8月17日	国際交流室	北田 玲子 高橋 陽子 春田 貞淑	講座受講者選考 通知作成 名簿作成	八王子国際協会の受講者選考基準に照らし合わせ今回の講座受講者選考基準について検討し、選考。 講座希望者への通知作成 講座受講者名簿作成を事務局に依頼 修了証について検討
12月10日	国際交流室	本田 弘之	講座反省会	運営員として講座に参加

		北田 玲子 高橋 陽子 春田 貞淑		し、運営、内容等について 講座を振り返った。
--	--	-------------------------	--	---------------------------

【写真】



3. 講座の内容について

(1) 講座名 子ども日本語支援ボランティア講座

(2) 開催場所

ア 講義 八王子市生涯学習センタークリエイトホール 第2学習室・第7学習室、
八王子労政会館 第5会議室、

イ 実習 八王子市生涯学習センタークリエイトホール第7学習室、八王子労政会館
第5会議室、

(3) 学習目標

- ・日本における外国につながる子どもたちの現状や課題、母国の社会的、文化的背景を理解する
- ・子ども日本語学習支援の指導方法を学ぶ

(4) 使用した教材・リソース

「外国人児童生徒のための支援ガイドブック」

「にほんごドレミ・にほんごジャンプ・にほんごチャレンジ」

「日本語学級」、「ひろこさんの日本語」、「みんなの日本語」、「にほんごをまなぼう」、

「こどものにほんご」、「にほんごかんたん」

「外国人児童・生徒を教えるためのリライト教材」

「子どもといっしょに！日本語授業おもしろネタ集」、「漢字カルタ」

「学校生活にほんごワークブッカー—高学年児童・中学生用教材」

「音声を教える」、「話すことを教える」

手作り教材、新聞・チラシ等

(5) 受講者の募集方法

HP(八王子国際協会・八王子市役所)、八王子市広報、ポスター掲載(八王子国際協会)
チラシ配布(八王子国際協会、外国につながる児童・生徒の学習支援団体、日本語ボランティア団体等)

(6) 受講者の総数 30 人

(出身・国籍別内訳 日本 30 人)

(7) 開催時間数(回数) 30 時間 (全 14 回)

講義 20 時間 (10 回)、実習 10 時間 (4 回)

(8) 参加対象者の要件

子ども日本語支援ボランティアとして活動している方

日本語ボランティア入門講座を修了した方

(9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
1	9月3日	2時間	28人	外国につながる子供たちの現状と課題—日本語教育政策	杏林大学外国語学部教授 本田 弘之
2	9月10日	2時間	30人	子どもたちの文化的社会的背景 フィリピン	特定非営利活動法人青少年自立援助センター 多文化コーディネーター ピッチフォード理絵
3	9月17日	2時間	21人	子どもたちの文化的社会的背景 中国	杏林大学外国語学部教授 本田 弘之
4	10月1日	2時間	22人	子どもたちの文化的社会的背景 南米	財団法人海外日系人協会 継承日本語教育センター長 水上 貴雄
5	10月8日	2時間	22人	八王子の外国につながる子供たち1	八王子市立第六小学校教諭 伊東 文子

6	10月15日	2時間	24人	八王子の外国につながる 子供たち2	八王子市立由井第一 小学校教諭 原島 光
7	10月22日	2時間	24人	母語と発音指導 1 実習	杏林大学外国語学 部准教授 嵐 洋子
8	10月29日	2時間	25人	母語と発音指導 2 実習	杏林大学外国語学 部准教授 嵐 洋子
9	11月5日	2時間	25人	子供たちへの日本語指導 1 母語の習得と第二言語習 得	元相模原市日本語 指導員、東京アート コミュニケーション 専門学校非常勤 講師 山内 美穂
10	11月12日	2時間	23人	子供たちへの日本語指導 2 実習	元相模原市日本語 指導員、東京アート コミュニケーション 専門学校非常勤 講師 山内 美穂
11	11月19日	2時間	19人	子供たちへの日本語指導 3 実習	元相模原市日本語 指導員、東京アート コミュニケーション 専門学校非常勤 講師 山内 美穂
12	11月26日	3時間	24人	日本語文型と使用場面 1 実習	杏林大学外国語学 部准教授 荒川 みどり
13	12月3日	3時間	21人	日本語文型と使用場面 2 実習	杏林大学外国語学 部准教授 荒川 みどり
14	12月10日	2時間	26人	日本語文型と使用場面 3	杏林大学外国語学 部准教授 荒川 みどり

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

1. 第1回講座の内容はいかがでしたか。

- a. とても良かった 21 b. 良かった 6
c. あまり良くなかった 0 d. 良くなかった 0

* 第1回講座へのご意見・ご感想

- ・子どもと大人の支援の違いがよくわかった。
- ・言語の習得に関する広い見識からのお話は興味深かった。
- ・「アイデンティティ クライシス」の現状が衝撃的だった。
- ・バイリンガルについての詳しいお話が参考になった。
- ・認知学習言語能力を身につける必要性がよくわかった。学習支援で接している子どもたちの困難さが身にしみた。
- ・子どもへの日本語支援が単に日本語の技術を教えるだけでなく、子どもの人間形成に関わる問題を含むということを知ることができた。日本語を教えるにあたっての心構え、姿勢を考る機会になった。
- ・「子ども日本語支援ボランティア」として活動したい。
- ・体験談や具体例をあげて説明して下さり、わかりやすく、まとまりがあって、頭が整理された。
- ・ユーモアがあって、楽しい講座だった。

2. 第2回講座の内容はいかがでしたか。

- a. とても良かった 20 b. 良かった 8
c. あまり良くなかった 0 d. 良くなかった 0

* 第2回講座へのご意見・ご感想

- ・フィリピンの国内事情や家庭事情などフィリピンの子どもたちの厳しい現状が良くわかった。
- ・東京の高校の外国人枠の少なさには驚いた。来日してから高校進学までの精神的な支援が特に重要だと思った。
- ・子どもたちの抱えている問題の大きさ、多さ、その中で頑張る子どもたちの姿が伝わってきた。ワークショップでの笑顔の写真を見て、少しホッとした。
- ・頑張って支援されている講師のお話が大変勉強になった。
- ・生きていくこと、生活していくことに精いっぱいのご家庭が多く、「教育を受けさせたい」とい気持ちがあっても、継続させていくことが難しいと感じる。私たちが当たり前だと思っていることがそうではないことが多く、気配りが必要だ。
- ・子どもたちへの接し方の難しさを感じた。

・複雑かつとても重い話で正直言って衝撃的な内容だった。自分に何ができるのかしっかり考えたいと思う。

・具体例をあげてわかりやすく、経験に基いた明確な講義で有意義だった。

・フリートークの時間がもっと欲しかった。

3. 第3回講座の内容はいかがでしたか。

- a. とても良かった 16 b. 良かった 6
c. あまり良くなかった 0 d. 良くなかった 0

* 第3回講座へのご意見・ご感想

・中国の現実の生活と考え方が日本と大きな差があることがよくわかった。

・大学入試事情など参考になった。

・近くて遠い国、中国の話はとても勉強になる。塾で指導をしているが、フィリピンの保護者と中国の保護者の教育に対する（子どもたちにかける）思いの違いの理由がわかった。

・現在の中国の問題点がシビアに明らかになった。ボランティア、仕事に関わらず人に言葉を教える根底にあるものは相手を温かく受け入れようとする姿勢だと感ずる。

・子どもたちの支援は難しいと思っていたが、今回のお話で意欲を感じた。

・実体験がとても興味深く、ユーモアを交えたお話に引き込まれあっという間の2時間だった。

・中国の光と影の部分がいまだに残っているということを具体的な例を挙げて話していただきわかりやすく、楽しく受講できた。

・質問、議論の時間を取ってほしい。発展潜在力を予見できると思う。

4. 第4回講座の内容はいかがでしたか。

- a. とても良かった 12 b. 良かった 9
c. あまり良くなかった 0 d. 良くなかった 0

* 第4回講座へのご意見・ご感想

・講師の南米・日系人社会に対する『愛』が感じられる内容で、好感が持てた。文化や習慣の違いを写真でたくさん見せてくださり、よくわかった。

・南米と日本の結びつきが意外とあることを知った。歴史的に思いのほか日本とのかかわりが深かった（日系人社会のお蔭で）と感じた。日本にいる日本人が知らないけれど、海外の南米の日系人たちは日本を愛し、様々な貢献をしてくれていた。

・日本はもっと南米に経済的にも目を向けるべきなのかなと感じた。また、移民受け入れの恩ある国々への貢献が必要かと思った。何よりこれほどかかわりがある国へ自分が無関心であったことが残念でこれからはもっと注目していこうと思う。

・ペルーからの子どもの教育支援をしているが、社会的文化的背景の話を伺い合点があったこともあった。

・内容が面白くもっとゆっくり聞きたかった。特に現在の子どもたちの状況が駆け足だったのが残念だ。

・子ども支援について問題点や成功例、今日本にいる子どもたちへの支援やアイデンティティの重点の置き方などについて「HOW TO」をききたかった。

・質問、議論の時間を取ってほしい。

5. 第5回講座の内容はいかがでしたか。

- a. とても良かった 8 b. 良かった 8
c. あまり良くなかった 2 d. 良くなかった 0

* 第5回講座へのご意見・ご感想

・学習事例が参考になりました。

・現場の先生のお話が聞け、日本語学級の現状を知ることができた。

・多くの資料を用意して下さり、子どもたちが具体的にどのように勉強しているかがよくわかった。

・ボランティアに望むことを伺い、改めてボランティアの役割を再確認することができた。

・お話はとても参考になったが、レベルが高くて難しかった。どんな形でお手伝いできる少し時間をかけて考えたい。

・ボランティアとして何が望まれているのか今日のお話ではよくわからなかった。学校の先生と市井のおばさん、おじさんボランティアの役割がどうなのか私の中の今後の課題だ。

・資料のプリントの字を大きくしてほしいし、出版社名を書いてほしかった。

6. 第6回講座の内容はいかがでしたか。

- a. とても良かった 6 b. 良かった 11
c. あまり良くなかった 2 d. 良くなかった 0

* 第6回講座へのご意見・ご感想

・子どもたちに寄り添うお話はとてもよかった。子どもの自尊心を育てる、大事にする。

子どもの劣等感を取り除いてあげる。子どもたちは異文化の中で疲れている。『あなたの言語、お国を尊敬している』という気持ちを持つことの大切さ。子どもたちが学んでいくのと同じように、我々も学ぶ謙虚さが必要。「勉強しなくなったら来なさい。」は良い言葉で、『嫌いにさせない』肝に銘じていかなくてははいけない。

・日本語の指導のポイント ①個別化 ②文脈化 ③統合化 コブトの意味を具体的に話していただき、とてもよくわかった。いろいろな意味でストレスの多い子どもたちにとって『居場所』作りの大切さもよくわかった。

・小学校での子どもたちの様子を興味深く伺い、日本の子どもたちも少し心配になった。

・子どもの興味をひきだし楽しく学習することの大切さを強く感じた。

・日本語指導のポイントにあった統合化という考え方を知り、納得させられた。子どもた

ちが興味を持つジャンルから日本語習得に結びつけるというような一人一人に合った教育を心がけたい。

・ボランティアの子ども支援は週一回で、中・高学年になるとつい教科に偏ってしまう。低学年のようにまず生きた日本語に触れさせることが大切だ。

・具体的で興味深かったです。講座受講者の中には実際にボランティアをしている人もいて具体的手がかりを得に受講している人もいるようなので、講師とのやり取りの時間の割合を今日のように増やしていくと講師の話が実践に役に立つ。

・学校の先生でない自分に何ができるのか、だんだんわからなくなってきた。

7. 第7・8回講座(発音指導)の内容はいかがでしたか。

- a. とても良かった 20 b. 良かった 3
c. あまり良くなかった 0 d. 良くなかった 0 e. 不明 2

* 第7・8回講座(発音指導)へのご意見・ご感想

- ・発音をどのように教えるかという具体的な方法は今後役に立ちそうだ。
- ・ビデオ、音声を実際に見せていただいたので、とてもよくわかった。
- ・日常深く考えずに話している日本語も発音にはいろいろ複雑なものがあり、うやむやだった知識が少しははっきりしました。今、中3のフィリピンから来た女の子を指導しているが、発音を「直す」「直さない」はそれぞれの意見があり、興味深く聞かせていただいた。
- ・具体例を活用して受講者が参加できてよかった。
- ・外国人の間違いやすいところがわかってよかった。
- ・音読をすることがとても大切な学習になると改めて思った。
- ・リライトという言葉を知り、縦書きにして高低を表す方法がよかった。
- ・自分の音声にも意識を持つことの大切さがわかった。
- ・深い内容と豊富な例をとりいれ、解り易く話して下さった。
- ・映像や音声を混ぜて納得感があった。でも、自分が教えるとなると自信がなくて…。

8. 第9・10・11回講座(子供たちへの日本語指導1・2・3)の内容はいかがでしたか。

- a. とても良かった 9 b. 良かった 6
c. あまり良くなかった 0 d. 良くなかった 0 e. 不明 2

* 第9・10・11回講座(子供たちへの日本語指導1・2・3)へのご意見・ご感想

- ・リライトなどのいろいろな仕掛け(アイデア)、いろいろな子供のケース、体験が聞けて良かった。
- ・年間計画の大切さがわかった。
- ・グループでの討論、発表が勉強になった。対象の子どもの様子によっても臨機応変に教材を変えていくことの大切さがわかった。
- ・実際に教える難しさとアイデアを考える必要性を勉強した。3回の講座はうなずくこと

が多く、今後に生かしたい。

- ・子どもたちへの指導にはバラエティーに富んだ工夫と相違が必要だとわかった。
- ・グループ分けでいろいろな方と交流でき、楽しく活動できた。
- ・経験の違う人たちのグループ分けは無理があったと感じた。お休みの多かったグループは皆で考えたりできなかったのでは。
- ・子どもの学習支援は日本語だけ教えているのではなさそうで、経験がないので、いろいろな教材の準備も自分でできるか心配だ。
- ・愛情と熱意あふれるパワフルな講座で、明るく楽しく勉強できた。
- ・リライト文を作ることの功罪にも触れてほしかった。

9. 第12・13・14講座（日本語文型と使用場面）の内容はいかがでしたか。

- a. とても良かった 18 b. 良かった 4
c. あまり良くなかった 0 d. 良くなかった 0 e. 不明 1

* 第12・13・14講座（日本語文型と使用場面）へのご意見・ご感想

- ・実際の指導に則して、応用が考えられ、参考になった。
- ・「文型と使用場面」についてとても詳しく、たくさんの例をあげて説明していただきわかりやすかった。
- ・必要なことを伝えながら、人間関係を深める会話の大切さがわかった。
- ・添削していただき、フィードバックしていただけたのは、とてもよかった。
- ・テキストを学習者にあわせて簡単にするというのがとても勉強になった。
- ・初級・中級・上級の文型を頭に入れておかないと指導できないということを実感した。
- ・不自然にならないようなわかりやすい練習文を作るのはなかなか難しいと思った。
- ・教えていないので、「学習者の顔を思い浮かべて」という先生のお題はどうしたらよいか分からず困ってしまっていたが、回を重ねるうちにわからないながらも「工夫する」「考える」という実技を通して実践への心構えが少しずつ出てきたように感じる。
- ・もっと回数が多いとよかった。「機能の違い」について勉強したかった。
- ・3時間が長いかなと思っていたが、短く感じるほど内容の濃い、楽しい講座だった。

10. 講座全体の内容はいかがでしたか。

- a. とても良かった 18 b. 良かった 5
b. c. あまり良くなかった 0 d. 良くなかった 0

* 回数はいかがでしたか。

- a. 少ないほうがいい 17 (6回-2、10回-15)
・都合を付けて休まず出席しましたが、14回はきつかった。
・14回ではスケジュール調整が難しく、受講したいのに用事で休まざるを得なかった。
- b. ちょうどいい 2

c. 多いほうがいい 2 (20回-1)

・もっと勉強したい。

不明 3

* 今後は? (複数回答可)

- | | | |
|----|-----------------|----|
| a. | 日本語ボランティアをしたい | 14 |
| b. | 学習支援ボランティアをしたい | 8 |
| c. | 上記以外のボランティアをしたい | 0 |
| e. | 現在ボランティアをしている | 6 |
| d. | 考えていない | 0 |

* 講座へのご意見・ご感想

- ・講師の方々がとてもわかりやすく教えて下さって、よかった。
- ・子どもに限らず、日本語ボランティアの具体的な内容の講座をお願いしたい。毎回知的好奇心が満たされ、満足した。勉強したものを現在教えている学習者に生かしたい。
- ・多方面からの講師の特色ある講座で興味深かった。
- ・学習者と習得者の意味の違いを知った。それを生かして学習者としっかり向き合いたい。
- ・実習もわかりやすく理解するのに役立った。
- ・既に活動中の方からお話を聞き得るものがあった。
- ・子ども日本語支援をしている「北野学習支援教室」に見学にいけてよかった。
- ・初めて日本語ボランティアをしてどうしてよいかわからないことがたくさんあったので、本当に助かった。
- ・子どもたちの心理的な面のお話も伺いたかった。
- ・もう少し子どもに焦点を当てて欲しかった。
- ・とても役に立つ内容でしたが、現在の北野学習支援教室ではすぐ使えない。
- ・受講者間の議論を増やしてほしい

② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・外国につながる子どもたちの状況と課題を理解し、子ども日本語支援ボランティアの必要性について研修ができた。
- ・中国・フィリピン・南米について子どもたちの社会的、文化的背景について理解できた。
- ・八王子の外国につながる子どもたちへの政策や学校での生活、日本語教育について理解できた。
- ・子どもの日本語指導に必要な文型導入の指導法・例文作成・発音指導などのより具体的に実践的な研修ができた。
- ・八王子国際協会事業である「外国につながる児童・生徒の北野学習支援教室」について「北野学習支援教室」委員長より活動説明をうけ、見学に行くことができた。(水曜日活動のた

め講座外に行われた。)

- ・子ども日本語支援ボランティアの活動に参考になる書籍を紹介できた。
 - ・子ども日本語支援ボランティアだけでなく、外国人とのかかわり方、人と人のかかわり方について参考にしてもらえた。
 - ・できるところからボランティアに取り組もうという気持ちを持ってもらえた。
 - ・実習を通し受講者同士の情報交換、交流ができた。
 - ・受講された方は早速八王子国際協会国の事業外国につながる児童・生徒の「北野学習支援教室」に参加された方もいたし、協会団体会員が主催する日本語ボランティア教室に積極的に見学に行かれたり、他の研修会に参加されたりした。
 - ・協会団体会員が主催する日本語ボランティア教室に参加された受講者も多かった。
 - ・様々な講師に参加していただいたことにより、お互いに情報交換、交流ができた。
- 八王子国際協会として特定非営利法人青少年自立支援センター福生子ども日本語教室の「公開事業および実践報告会」に参加したり、由井第一小学校の日本語学級や横浜の海外移住資料館を見せていただいた。
- ・9月から12月までの長期間だったので、30名のうち80%以上出席した方が、15名しかいなかった。生活のある大人が毎週14回2時間を作ることはとても難しい。時間の長さではなく質なのではないか。
 - ・実習についてはもう少し細かい打ち合わせが必要だったのではないか。
 - ・会場や開始時間がいつも同じではなかったため、遅刻者が多かった。事務局のきめ細かい対応ができていなかった
 - ・プロジェクターなどを使用して下さったが、使い方に工夫が必要だった。

(10) 今後の計画

- ・学習者が必要としている日本語が学習できるようするために、講座で荒川講師が紹介された「場面・表現意図・話題(理解と発信)」を多言語翻訳し、活用できるようにする
- ・講座で紹介した書籍を受講者に貸出
- ・2012年1~3月に外国人ボランティアに参加してもらい、講座で学習した会話・発音練習の2項目についての実習を計画、11名の参加予定
- ・次年度も子ども日本語支援ボランティアを養成
- ・八王子国際協会主催の外国につながる児童・生徒の学習支援教室を開催、子ども日本語支援ボランティアの活動の場を提供

(11) 事業の成果

1・他事業との連帯

- ・協会団体会員が主催する外国にルーツを持つ児童・生徒の学習支援教室、日本語ボランティア教室の紹介

- ・八王子国際協会の「外国にルーツを持つ児童・生徒の学習支援教室」のボランティア及び研修会への参加を呼びかけた。

2・研修後の人材活用

- ・八王子国際協会の実施している「北野学習支援教室」に受講者が支援者として参加
- ・協会団体会員が主催する外国につながる児童・生徒の学習支援事業に参加
- ・協会団体会員が主催する日本語ボランティア教室に参加
- ・地域日本語ボランティア教室に参加
- ・八王子国際協会でのボランティア活動に参加

(12)今後の課題

- ・質の高い子ども日本語支援ボランティアの養成講座の継続
- ・子ども日本語支援ボランティアの養成と外国につながる児童・生徒の学習支援教室で十分に役割を果たせるようなバックアップの仕方
- ・広域である八王子で外国につながる児童・生徒の日本語及び学習支援教室が一カ所だけでは不十分であり、市内他地域での教室開設が課題
- ・地域の日本語ボランティア活動の継続と支援
- ・地域大学等の日本語教育機関、行政機関との連帯活動
- ・魅力ある日本語ボランティアコミュニティ作り
- ・文化庁による支援がない場合には講座を開催できず、講座開催が不定期で継続性がないこと